

4. 言語聴覚専攻科における3つのポリシー

アドミッション・ポリシー
言語聴覚専攻科では、言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障害をもつ人を支援し、評価・訓練及び指導ができる言語聴覚士の養成を目的とする。 「心技一体」という本学の建学の精神に則り、言語聴覚士に求められる専門性を身に付けるのみならず、深い人間理解を土台とし、優れた言語・コミュニケーション能力と豊かな人間性をもつ言語聴覚士の養成を目指しており、次のような人材を広く求める。 ア 本学の「心技一体」という建学の精神に共感し、人を愛する豊かな心と優れた技術を統合できる言語聴覚士を目指す人 イ 大学卒業程度以上の基礎学力（文章読解力、文章作成能力、論理的思考力）を有し、入学後の学修に十分対応できる人 ウ 自分の考えを積極的に文書や口頭で表現でき、他者と良好なコミュニケーションを取れる人 エ 生涯にわたって、複雑で多様な障害をとりまく問題への関心と、解決して行こうとする意欲をもち、自らを磨き続ける人
カリキュラム・ポリシー
言語聴覚専攻科では、建学の精神とディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するため、以下の方針のもとで、言語聴覚士国家試験受験資格の取得に必要な専門基礎科目と専門科目を中心に据えたカリキュラムに基づいて教育を行う。 1) 人を思いやり愛する心と専門技術を統合する力を養う。そのため、1年次で建学の精神を学ぶ。また、臨床実習及びそのオリエンテーション、フィードバック等において、患者や家族に寄り添うことを重視した指導を行う。 2) 言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得する。そのため、専門科目を1年次の初めから配置し、また、臨床での応用力を養うために、演習科目設けるとともに、臨床実習を1年次末から開始する。 3) 関係他職種と円滑にコミュニケーションをとる力を身につける。そのため、チーム医療に関する科目を配置するとともに、「建学の精神」での合宿研修により同一キャンパスで学ぶ他専攻学生との交流を促進する。また、臨床実習後は実習報告会を開催し、自分の言葉で他者に適切に説明できる能力を養う。 4) 2年次に総合演習を設け、国家資格取得にとどまらず、将来にわたって社会の要請に応え、自己研鑽を続ける姿勢を涵養する。
ディプロマ・ポリシー
言語聴覚専攻科は、次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、修了証を授与する。 1) 人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力 2) 言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力 3) 職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力 4) 複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力